

2019/2020 年度 第 2 回全国委員会 議事要旨

日時: 2019 年 12 月 15 日(日) 10:30-15:40

会場: 筑波大学東京キャンパス文京校舎

出席者(敬称略): 呑海沙織(委員長), 上村順一(事務局長), 中筋知恵(北海道), 鈴木正紀(埼玉), 加藤晃一(千葉), 下山朋幸(東京), 中島慶子(東海), 吉田弥生(大阪), 楯幸子(広島), 柿原友紀(九州), 田辺浩介(学術基盤整備研究), 赤澤久弥(常任・京都代理), 牛島千穂(常任), 北川正路(常任), 小山莊太郎(常任・兵庫代理), 西脇亜由子(常任・記録), 和知剛(常任), 青山史絵(通信常任)*, 野寄恵(通信常任)* *=ZOOM 参加

配付資料:

1) 報告事項

1. 第 50 回全国大会神戸大会 決算報告
2. 第 51 回全国大会(東京大会)実施案
3. 大図研会員の地域グループ活動費徴収に関する意向調査結果
4. 大学図書館問題研究会五十周年記念出版物の構成(案)
5. 海外図書館研修ツアー検討小委員会報告事項
6. 収支状況報告
7. 地域グループ別会費納入状況一覧
8. 2019 年 6 月末 除籍対象者リスト **取扱注意**
9. 会員現況報告
10. 会員からの申請手続き処理フローの変更・研究グループへの参加申請の追加
11. グループ活動報告

2) 審議事項

1. 会報『大学の図書館』への他機関からのコラボレーション企画の持ち込み
2. 2.4. 大学図書館問題研究会 SNS 運用規約(ソーシャルメディアポリシー)(案)
3. 大図研出版物のデジタル化と頒布方法(案)
4. 大図研出版物の管理と販売(案)
5. 会費長期(3 年度分)未納者リスト **取扱注意**
6. 地域グループとの会員情報の突き合わせ実施について
7. 会員情報のグループへの安全な引き渡し手順
8. 大学図書館問題研究会の名称について(案)

1. 報告事項

1.1 小委員会・事務局

1.1.1 全国大会小委員会

1) 第 50 回全国大会開催報告(担当: 赤澤小委員長)

80名参加, 22社協賛(予算は 23 社だった)。大会実行委員会形式, 詳細は12月号記載。

2) 第 50 回全国大会(神戸大会)決算(担当: 上村事務局長) [→報告資料 1]

収支は黒字となった。

3) 第 51 回全国大会(東京大会)実施案(担当: 赤澤小委員長)[→報告資料 2]

・資料の日付について修正あり。

・2日間の構成。実行委員は今後募集。

1.1.2 研究企画小委員会(担当: 西脇小委員長)

1) 大図研会員の地域グループ活動費徴収に関する意向調査結果 [→報告資料 3]

1.1.3 会報編集小委員会 (担当: 上村小委員長)

1) 2020年の会報特集企画担当グループについて

- 1月号 (会報編集小委員会)
- 2月号 東京地域グループ [第1希望]
- 3月号 大阪地域グループ [第1希望]
- 4月号 (会報編集小委員会)
- 5月号 (研究企画小委員会/DOC号?)
- 6月号 兵庫地域グループ [第1希望]
- 7月号 (会報編集小委員会/大会議案書号)
- 8月号 北海道地域グループ [第1希望]
- 9月号 京都地域グループ [第1希望]
- 10月号 (会報編集小委員会)
- 11月号 九州地域グループ [第1希望]
- 12月号 (会報編集小委員会/大会記録号)

今回は、2020年の全国大会の時期が通常とずれるため大会フラッシュ号をなくすなどの担当割となっている。

2) 『大学の図書館』のEBSCO社データベースへの採録進捗報告

進捗なし。先方より照会を受けて確認中。dtk-zで照会したが何か意見あれば1週間以内に意見をいただきたい。今年中には回答を返す予定。

1.1.4 会誌編集小委員会 (担当: 和知小委員長)

1) 会誌46号進捗状況

論文査読関係で進行が遅れ気味となっている。著者に戻すところでありなるべく早く刊行したいが1月刊行が難しいかもしれない状況である。

1.1.5 広報小委員会 (担当: 和知小委員長)

1) 広報概況→報告事項なし。

1.1.6 五十周年記念事業記念出版物編集小委員会 (担当: 呑海小委員長)

1) 大学図書館問題研究会五十周年記念出版物の構成[→報告資料 4]

原稿部分については、各地域グループに2-3ページ程度の原稿(グループの振り返りについて)を依頼予定である。そのほかの原稿執筆者についても12月中に確定し執筆依頼を予定している。そのほかエッセイといった原稿の内容や執筆者について意見が求められた。

1.1.7 五十周年記念事業海外図書館研修ツアー検討小委員会 (担当: 呑海小委員長)

1) 現況報告[→報告資料 5]

- ・現在1名から申込あり、1名から問い合わせ、1名から相談ありの状況であると報告があった。海外経験が少ない方を主な対象としている。応募期間は1月末締切である。
- ・旅行の保険はグループ加入か、という質問に対し、個人加入との回答があった。大図研として助成するのはイギリス国内の交通費のみ、それ以外は個人負担となる。

1.1.8 五十周年記念事業大学図書館問題研究会の名称に係る検討小委員会 (担当: 和知小委員長)

11/15よりシンボルマーク募集開始, 12月末締切。名称の変更については, 今年度からは名称にかかる検討は常任委員会, それに伴い, こちらの小委員会の名称を「シンボルマークにかかる検討小委員会」に変更したとの報告があった。

1.1.9 事務局 (担当: 上村事務局長)

1) 事務局業務進捗報告[報告資料なし]

常任委員会を3回実施し, 実施日等は下記の通り。

- 2019/09/29(日) 2019/2020 年度第 1 回常任委員会
 - 筑波大学東京キャンパス文京校舎
- 2019/10/12(土) 2019/2020 年度第 2 回常任委員会
 - ZOOM オンライン会議
- 2019/12/01(日) 2019/2020 年度第 3 回常任委員会
 - 筑波大学東京キャンパス文京校舎

1.1.10 事務局出版担当 (担当: 上村事務局長)

[報告事項なし]

1.1.11 事務局会計担当 (担当: 上村事務局長・野寄委員)

1) 収支状況報告[→報告資料 6]

配布資料は10月分まで反映している。現在は助成金を入金し領収書を待っている状況である。執行状況等は特に問題なし。

1.1.12 事務局会費徴収担当 (担当: 渡邊委員・長坂委員・赤澤委員)

1) 会費納入状況[報告資料なし]

2) 地域グループ別会費納入状況[→報告資料 7]

地域グループによって納入率が低いところは会員にお声がけいただきたい。一括徴収以前の地域グループの徴収について報告がない。

3) 2019 年 6 月末除籍者リストについて[→報告資料 8]

個人情報を含むため取り扱いに注意の上確認していただきたい。3か年未納の場合は除籍となるというルールになっており, このリストは除籍となった方である。未納部分は各地域グループで引き続き徴収をしていただく。

1.1.13 事務局組織担当

1) 会員現況報告 (担当: 青山委員)[→報告資料 9]

2) 会員情報悉皆調査 (担当: 上村事務局長)

・対処状況報告と回答率について[報告資料なし]

回答率は6割程度。変更がなくても回答するよう各グループでも注意喚起を願いたい。会員全員に行える広報手段が現在は会報しかないため, 第一手段をメーリングリストにする目的での悉皆調査である。

3) 会員からの申請手続き処理フローの変更・研究グループへの参加申請の追加 (担当: 青山委員)[→報告資料 10]

常任委員会ではすでに手続変更について承認済み。2020年1月から改訂予定。

1.2 ワーキンググループ

1.2.1 全国大会 WG (担当: 赤澤 WG 長)

[報告事項なし]

1.2.2 出版・管理 WG (担当: 呑海 WG 長)

[報告事項なし]

1.3 グループ [→報告資料 11]

・会費一括徴収以前の未納分の会費徴収状況について

大阪:督促が滞っている(一括徴収変更前には一度行ったがその後動きなし)。

東海:除籍リストにある方については支部時代から声かけなどは継続しているが実際には納入がない。

東京:昨年12月あたりに郵送で督促実施, 除籍対象にはならなかった人からは振込確認, 今年度については実施できていないので郵送で督促予定。

広島:すでに督促して納入はあった。

その他のグループについては状況把握していない, 督促もしていない→督促は必要, 複数手段をとっても連絡が取れない場合は個別相談とする。

除籍となった人も, 全ての人から徴収したわけではないため, 引き続き督促を会費徴収担当から実施。

1.3.1 北海道地域グループ (担当: 中筋委員)

1.3.2 埼玉地域グループ (担当: 鈴木委員)

関東地域グループ合同例会を予定

1.3.3 千葉地域グループ (担当: 加藤委員)

1.3.4 東京地域グループ (担当: 下山委員)

・グループ長・全国委員の交代があった。

1.3.5 東海地域グループ (担当: 中島委員)

今後來年2月に愛知大学見学を予定

1.3.6 京都地域グループ (担当: 安東委員・(代理)赤澤委員)

1.3.7 大阪地域グループ (担当: 吉田委員)

1.3.8 兵庫地域グループ (担当: 井上委員・(代理)小山委員)

1.3.9 広島地域グループ (担当: 楯委員)

一部役員の変更があった。

1.3.10 九州地域グループ (担当: 柿原委員)

1.3.11 学術基盤整備研究グループ (担当: 田辺委員)

2. 審議事項

2.1 第51回全国大会の構成 (担当: 赤澤全国大会小委員長)[審議資料なし]

報告資料にある項目について, 第52回の開催候補地は, 秋田とすることで確認した。

2.2 今年度の DOC 開催 (担当: 西脇研究企画小委員長)[審議資料なし]

DOC 企画担当可能なグループがあれば申し出てもらうよう呼びかけがあった。

2.3 他誌とのコラボレーション企画 (担当: 上村会報編集小委員長)[→審議資料 1]

配布資料を基に経緯と審議事項について説明があり, オリジナル原稿掲載を基本としていくことから本件についてはお断りすることを承認した。

2.4 大学図書館問題研究会 SNS 運用規約(ソーシャルメディアポリシー)の制定 (担当: 和知広報小委員長)[→審議資料 2]

・今年5月の常任委員会では承認されたが, これまでこうした規約がなかったため, FB・

Twitter の運用について問題が生じないように作成し、投稿内容についても定めたものである。管理者は事務局長、運用担当者は広報担当、速報性が求められるため運用担当者（広報）の裁量により運用されるが、会員から記事投稿依頼があった場合は担当者によって適切性を判断し、必要に応じて管理者・常任委員会で判断して投稿する。その他、大図研の名称を使用しての SNS 投稿については事前に常任委員会に届け出るものとする。

・SNS だとフォローや返信については？→現状では地域グループなどのフォロー程度で返信は想定していないが、運用ルールなどで別に規定してもよいのではとの意見があった。既存のものについては遡及しない。

・大図研の HP 上に FB の埋め込みなどの予定は？ ぜひ今後改訂していきたい。

SNS 開設していない地域グループも、本体の SNS に投稿依頼可能。

上記の通り意見交換・確認を行い、文言の修正などを経た上で承認した。

2.5 大図研出版物のデジタル化と頒布方法（担当：呑海 WG 長）[→審議資料 3]

・配布資料に基づき説明があり、会報・会誌を含む刊行物について会員にはデジタル版を頒布、購読者には紙版を販売という提案と共に提供方法を大図研ウェブ上からとする案を承認した。

・意見・質問

案1でも2でも、DOIをつけてほしい（現状は会誌にもついていない）、JSTAGE に掲載しても自動的にとはつかない、JALC に登録が必要、JSTAGE の方が非会員からの可視性は高まる、現状収録されている雑索では2ページ以上でないと掲載されない、ウェブサイトの方がアクセスのプロセスが少ない、JAIROcloud 年額負担最小4万円+メタデータ作成。案1の場合は大図研公開サイトから URL を張るかどうかも今後検討。

2.6 大図研出版物の管理と販売（担当：呑海 WG 長）[→審議資料 4]

・配布資料に基づき説明があり、今後の出版物管理に関しては、今後特定機関や担当者が継続的に対応することが難しいため、カレントの出版・定期購読販売を業務委託し、バックナンバーについてはデジタル化ののち廃棄とともに販売凍結などの提案について承認した。

・バックナンバーを当面保管する場合は保管場所の問題があり、デジタル化する場合は業務委託か自前かなどの問題がある。委員長・事務局長には全バックナンバーがあることになっているが、前事務局長までのものは引き継がれていない。刊行物販売管理と保存を並行して進める必要があるといった現状も確認した。

2.7 2020年6月末除籍者リストについて（担当：渡邊委員）[→審議資料 5]

資料を基に説明があった。取扱注意。長期未納者リストについては、それぞれの地域グループで、あるいは対象者を知っている人は声掛けする。記載の6名については納入がなければ除籍となることを承認した。

2.8 会員悉皆調査のグループへのフィードバック（担当：青山委員）[→審議資料 6]

資料を基に目的と実施方法について説明があった。今年度中に組織担当の名簿と各地域グループの名簿との突合せをするためデータをやり取りする。会員情報に変更があった場合は、現状では組織担当に情報が来た後、各地域グループに反映する流れだが、各地域グループだけしかもっていない情報があればそれを組織担当に共有する。会員個人が事務局に連絡して会員情報を変更するようになっているが、地域に直接連絡が行っている場合もありうるため。

2.9 会員情報のグループへの安全な引き渡し手順（担当：上村事務局長）[→審議資料 7]

・配布資料に基づき、地域グループから事務局が管理する名簿（通常は非公開情報）の入手方法について明文化したものについて提案があり、承認した。今後ウェブフォームの内容確定後、dtk-z で URL を連絡し、運用開始予定。

・意見・質問：

「なりすまし対策」について ウェブフォームの URL は dtk-z のメーリングリストのみで共有。

会報執筆依頼時に他地域グループの会員情報についても請求できるのか→10年近く前に刊行したような会員名簿の作成・配付という手段も考えられるが予算を積み立てる必要がある。

2.10 大学図書館問題研究会の名称について（担当：呑海委員長）[→審議資料 8]

・配布資料に基づき、研究会の名称の問題に関する経緯とともに名称変更とそのスケジュールについての提案があり、各グループで検討した上で案に沿って進めることとした。

・意見・質問：

英語名称について、各大学を代表しているわけではないので図書館員の集まりという意味では Librarian's でもよいのでは。Association だと、組織の集まりのようなニュアンスなので、個人の集まりだと考えれば Society の方がよいのでは。Librarian とすると限定的になるのでは。

他の組織に関する名称（委員長・全国大会など）の変更などについても検討予定か→そうである。名称や英語略称などの変更によってどの程度の影響が出そうか。Japan から Japanese に変更する理由など。

2.11 その他

全国委員として、個人としての意見を出していただくとともに各グループとの橋渡しという役割を果たすという役割を確認した。

以上